

新聞報道における韓国語比喩表現
ーことわざの場合ー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-06-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 澤田, 浩之, SAWADA, Hiroyuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15053/0000000209

【解説】

新聞報道における韓国語比喻表現 — ことわざの場合 —

澤田 浩之

1. はじめに

本稿では、ことわざが実際に使用される際に辞書形のままではなく、その一部のみが使用される「縮約¹⁾」及びことわざの構成語彙をコンテキストに合わせて他の語彙と置き換えて用いる「語彙の置き換え」について新聞報道の見出し²⁾を資料として解説する。

見出しでは、少しの害を与えてその何倍もの報いを受けるという意味を表すことわざ「되로 주고 말로 받는다(1升枰で与えて1斗枰で受ける)」が、「입냄새 되로 주고 말로 받을 수 있다(口臭、1升枰で与えて1斗枰で受ける可能性がある)」や「크리스마스 선물 되로 주고 말로 받고 싶어(クリスマスプレゼント、1升枰で与えて1斗枰で受けたい)」のように、辞書形を維持したまま文末の用言の語尾を活用させる場合がある。このような語末語尾の活用や助詞の省略・添加・変換、統語構造の変換はイチョンチョル[이종철] (1998)の研究で既に解明されているため、本稿では扱わないこととする。

「縮約」と「語彙の置き換え」についてはチュヨンジン[주영진] (2001)、イトンギョ[이동규] (2005)で部分的に研究されている。しかしながら両者の研究はことわざと慣用表現の両方の性格を併せ持った「ことわざ慣用語³⁾」の概念及び指導案の提示に重点を置いているため、「縮約」と「語彙の置き換え」の実態については部分的にしか言及されていない。

また、鄭芝淑(2008)は日韓のことわざの「異形」について比較してい

るが、ここで言う「異形」とは、同じことわざがことわざ辞典によって異なる表現形式で見出し語とされている場合の形式のことを指しており、特定のことわざが実際に使われる時の形である「使用形」と区別している。本稿は新聞報道の見出しを資料としていることから「使用形」についての実態を明らかにすることを目的としている。

本稿で扱う「縮約」と「語彙の置き換え」については辞書形の最初の語彙が省略されていたり置き換えられていれば、余程のレベルの学習者でない限り、辞書を用いても本来のことわざに辿り着けないであろう。もし辿り着けたとしても辞書の説明とは異なった意味で用いられる場合もあるため、これらの実態について解明することは意義がある。

2. 分析対象ことわざと分析方法

『韓国のことわざ大辞典[한국의 속담 대사전]』には約 5 万語のことわざが収録されているが、この中からどれを韓国語非母語話者向けの「教育用ことわざ」として選定するのかについてこれまで多くの研究が行われた。「教育用ことわざ」選定の方法は、まず一次選定として各大学の韓国語教育機関発行のテキスト、韓国語能力試験、ことわざ教材等の中からことわざを抽出し、使用頻度、意味の透明度、語彙の難易度、学習者の母語との比較等を基準として等級付けを行うというものである。

本稿では一次選定のことわざが最も多く提示されているイムソンウク[임성옥](2011)の「韓国語教育用ことわざ目録⁴⁾」350 個を対象に分析を行った。韓国最大手のインターネットポータルサイト「NAVER」のニュース欄で検索し、350 個のことわざの中から新聞報道の見出しで引用されているものを抽出し、10 件⁵⁾ 以上使用されたものに限定した。この条件を満たした 57 個のことわざについて、本来のことわざの意味、見出しにおける意味、ことわざで用いられている語彙の比喩、置き換えられた語彙の特徴、引用された見出しの特徴等を中心に解説する。なお、「縮約」は名詞形、叙述形、名詞形と叙述形の両方の形が存在するものに、「語彙の置き換え」は名詞が置き換えられたものと名詞と用言の両方が置き換えられたものにそれぞれ分類したが、「縮約」と「語彙の置き換え」の両方

が存在するものは数が少ないため、「語彙の置き換え」の項目に含めた。

3. 見出しにおける「縮約」

3. 1. 名詞形

(1) 강 건너 불구경(川向こうの火事見物⁶⁾)

自分には関係ないことだと無関心に傍観することであるが、見出しでは「불구경(火事見物)」の形で、問題を知りつつもそれを解決しなければならない当事者がわざと放置しているという意味で引用されている。

「칭다오 일본 공장 10 곳 방화・약탈…일본 대사관 투석 경찰은 불구경(青島日本工場 10ヵ所放火・略奪…日本大使館投石、警察は火事見物)」は、デモを統制していた警察が、デモ隊が投石を始めるや見て見ぬ振りをしたことに対して批判したものである。見出しでは特に政府や自治体が問題を放置してその義務を果たしていない場合に引用された例が多く見られた。

(2) 고인 물이 썩는다(溜まった水が腐る)

勤勉に働いて自分を磨いていないと成長しない、又は他人よりも劣ってしまうという意味であるが、見出しでは「고인 물(溜まった水)」の形で引用され、ある分野で成功し安住している状態を象徴している。「A “고인 물이 되긴 싫다” …데뷔 40 년 맞아 연극무대로(A “溜まった水になりたくない” …デビュー40 年を迎えて演劇の舞台に)」は、映画やドラマでは確固たる地位を築いた大女優 A がそれに満足せずにそれまで経験したことのない演劇に挑戦するというものである。既に結果を出して周囲からも認められているのにさらなる発展のためにそこに留まらないということである。この他に「고인 물(溜まった水)」を、権力を握っているという喩えで引用した見出しも見られた。

(3) 남의 떡이 더 커 보인다(他人の餅の方が大きく見える)

他人の餅が自分の餅よりも大きく見えてうらやましいという意味であるが、見出しでは「남의 떡(他人の餅)」の形で、他の人たちには経済的

利益がもたらされているのに自分にはその恩恵がないという意味で引用されている。「주가 2000 선 넘어도 개인은 남의 떡 (株価指数 2000p 超えても個人には他人の餅)」は、株価が上昇したのに得をしたのは機関投資家だけで個人投資家には関係ないというものである。見出しでは特に政府が経済的弱者を救済するために行った制度改革において条件を満たしていないと言う理由で経済的恩恵を受けられずにいる人の不公平感を訴えたものや大企業または首都圏の企業のみにもたらされる経済的利益等を紹介したものが多く見られた。

(4) 닭 쫓던 개 지붕 쳐다보듯 (鶏を追いかけていた犬が屋根を見上げるよう)

苦勞してやっていた事が失敗に終わりどうすることもできないという意味であるが、見出しでは「닭 쫓던 개 (鶏を追いかけていた犬)」の形で、これまで進めていたことがもはやこちらの手が及ばない段階になってしまったという喩えになっている。「‘닭 쫓던 개’ 된 A 팀…B 선수 농치자 FA 시장 완전 철수 (‘鶏を追いかけていた犬’になった A チーム、B 選手逃すや FA 市場から完全撤収)」は、プロ野球チーム A が選手獲得に失敗したという内容で、B 選手が所属チームに残留することになり A チームとしてはこれ以上交渉の余地がなくなったというものである。このことわざは上述の喩えであれば引用される文脈に特に制限はない。例えば「경찰 (警察)」と共に引用されれば、警察が逮捕寸前で犯人を取逃がしたという喩えになるし、企業名と共に引用されれば M&A 等の企業間の交渉が暗礁に乗り上げたという喩えになる。

(5) 모난 돌이 정 맞는다 (角ばった石がのみで打たれる)

頭角を現す人は妬まれるということでも否定的な意味で用いられるが、見出しでは「모난 돌 (角ばった石)」の形で、最近注目されている企業やこれから求められる人物像の比喩として引用されている。「화장품 시장, ‘모난 돌’ 이 성공? (化粧品市場、‘角ばった石’ が成功)」は、それまでの化粧品業界の固定観念を打ち破った異色の企業が成長していること

を紹介した記事であるが、ここでは業界の常識を覆した企業ということである。他の見出しでも共通しているのは「모난 돌(角ばった石)」が単に才能があるということではなく、それまでの常識や価値観とは異なる行動をする人や企業を象徴しており、本来の使い方とは異なり肯定的文脈で引用されているということである。

(6) 발등에 불이 떨어지다(足の甲に火が落ちる)

事態が切迫しているということであるが、見出しでは「발등에 불(足の甲に火)」の形で、突然の外的環境の変化により戦々恐々としているという喩えで引用されている。「A 사 온다…국내 가구업계 ‘발등에 불’(A社が来る…国内家具業界、‘足の甲に火’)」は、外資系の大手企業が韓国に進出するのを目前にしてこのままでは飲み込まれそうであるが打つ手がなく慌てふためいているということである。この他に見出しでは政府や自治体等が推進していた事業が何らかの障害でこれ以上進めるのが厳しくなった際にも引用されている。

(7) 배보다 배꼽이 더 크다(腹よりへその方が大きい)

本末転倒という意味であるが、見出しでは「배보다 배꼽(腹よりへそ)」の形で、主となる物の値段よりそれに付随する物の費用の方が高いという意味で用いられている。「저가 항공사의 비싼 수수료…자칫하면 배보다 배꼽(LCCの高い手数料…ともすれば腹よりへそ)」は、格安航空会社を利用する時は、航空券よりもキャンセル料の方が高い場合があるから気を付けるように呼びかけたものである。見出しにおいては電化製品の修繕費や設置費、中古車の修理代に対する消費者の苦情や、経済効果の見込めない公共事業、高価な景品で消費を煽る業者への批判において引用された例が多く見られた。

(8) 병어리 냉가슴 앓듯(口の利けない人が気をもむよう)

口の利けない人がやり切れない気持ちを訴えるすべがなくもどかしいように他の人に言えずに一人で苦しむことであるが、見出しでは「병어

리 냉가슴(口の利けない人が氣をもむ)」の形で、不当な扱いを受けた当事者の納得できない気持ちを表す際に引用されている。「채용 취소 당한 구직자, 병어리 냉가슴(採用取り消された求職者、口の利けない人が氣をもむ)」は、過去に採用を取り消された人と企業の人事担当者に対してアンケート調査を行った結果を紹介したものであるが、見出しは求職者の気持ちを代弁するような印象を与えている。このことわざは特に不可抗力的な原因により当事者にとって不利な事が続いた時に引用されており、事故等の問題が相次ぎ解決策が見つからず困惑している場合にも適用されている。

(9) 벼룩의 간을 내어 먹는다(蚤の肝を取り出して食う)

とても浅ましいという意味であるが、見出しでは「벼룩의 간(蚤の肝)」の形で、生活が厳しい人から財産を奪った卑劣な犯罪を取り上げる場合に引用されている。見出しでは「벼룩(蚤)」は経済的弱者を、「간(肝)」はなけなしの財産を象徴している。「벼룩의 간을…이웃집 90 세 할머니 연금통장 슬쩍(蚤の肝を…隣家 90 歳のおばあさんの年金通帳をこそっと)」は、近所に住む老人の家に空き巣に入り、通帳、印鑑、身分証等を盗み、老人の老齢年金を使い込んでいたという事件であるが、年金暮らしをしている老人をターゲットとするという卑劣極まりない行為を批判している。この他に見出しでは生活保護受給者、障害者、学生、労働者等に対する窃盗、恐喝等の犯罪を取り上げる際に引用されている。

(10) 소문난 잔치에 먹을 것 없다(噂の立っている宴会に食べる物はない)

噂や期待が大きいのに比べて実際の中身がそれに伴っていないという意味であるが、見出しでも「소문난 잔치(噂の立っている宴会)」の形で、同様の意味として用いられる場合が多い。「A 대 B, 소문난 잔치 아쉬운 맞대결(A 対 B、噂の立っている宴会、残念な直接対決)」は、どちらもチームを代表するエースでその直接対決に多くのファンが注目したが両投手共に先発の役割を果たせず残念な結果に終わったという内容である。

わずかではあったが見出し独特の比喻も見られた。「오늘부터 가을잔치 시작…소문난 잔치(今日から秋の宴開始…噂の立っている宴会)」は、プロ野球の準プレイオフ(クライマックスシリーズ)の見所を紹介したもので、ここでは注目に値するという使われ方をしており本来の意味とは反対の意味で引用されている。

(11) 염불에는 마음이 없고 잣밥에만 마음이 있다(念仏には気がなく 供え物にだけ気がある)

自分がすべき事には誠意を尽くさず自分の利に関心を示すということであるが、見出しでは「염불보다 잣밥(念仏より供え物)」の形で、本業はそっちのけで私腹を肥やすことを批判する文脈で用いられている。「빅 4 회계법인 ‘염불보다 잣밥’ (빅 4 会計法人、‘念仏より供え物’)」は、大手の会計法人が本業である会計監査はなおざりにして収益性の高いコンサルティング業務にばかり集中していることを批判したものである。特に見出しでは公的機関の役員等がその地位を利用して法には触れないものの不当に高い収益を得ていたり、公職に就いている人が国民の血税を浪費することに対して厳しい批判をする際に引用されている。

3. 2. 叙述形

(12) 눈에는 눈, 이에는 이(目には目、歯には歯)

自分が被害を受けた分だけ相手にも報復するという意味で、見出しでは前節と後節のいずれかが省略された形で、争っている対象が両方出てくる場合が多い。「눈에는 눈, 車에는 車 A와 B 마케팅 전쟁(目には目、車には車、A と B のマーケティング戦争)」は、自動車会社 A が中型セダンを発表する前日に B が中型セダンを発表する等、これまでも熾烈な争いが繰り返されて来たが、マーケティングにおいても火花を散らし合っているというものである。このように必ずしも害を受けてその仕返しをするということに限定されるわけではなく、企業同士の競争で引用された例が多く見られた。

(13) 돌다리도 두드려/두들겨 보고 건너라(石橋も叩いてみて渡れ)

熟知していることも細心の注意を払えという意味で、見出しでは「돌다리도 두드리다/두들기다(石橋も叩く)」の形で、証券市場の動向を表現する際に引用される場合が多い。「증권가 “돌다리도 두드릴 때” 단기투자 경계령(証券街、“石橋も叩く時”、短期投資警戒令)」は、各証券会社のアナリストが短期投資は慎重にすべきだという分析をしているとすることを紹介したものである。今は投資を控えた方がいい銘柄や金融商品を専門家の分析を通して紹介するものが多く、これ以外にもマイホーム購入や起業する際に気を付けた方がいい点等、読者に注意を促す文脈で引用されている。

(14) 물에 빠지면 지푸라기라도 잡는다(溺れたら藁でもつかむ)

危急の時は何にでもすがってしまうという意味であるが、見出しでは「지푸라기(라도) 잡다(藁でもつかむ)」の形で、個人や団体のせっぱ詰まった状況や経験を紹介する文脈で引用されている。「강도범 전락한 실업자들 지푸라기 잡는 심정으로 클릭(強盗犯に凋落した失業者たち藁をつかむ心情でクリック)」は、数年間不安定な生活をしていた失業者がネット掲示板で「何でもお手伝いします」と言う書き込みを見て藁にもすがりたい思いで連絡し、そこで知り合った人たちから犯罪の誘惑を受け、犯行に及んだというものである。見出しではこのように「심정(心情)」と共に引用されることが多く、窮地に追い込まれて現状ではどうすることもできず可能性があるのなら手当たり次第何でもするという気持を表現している。

3. 3. 名詞形と叙述形の両方の形が存在するもの

(15) 닭 잡아 먹고 오리발 내민다(鶏をつぶして食べてアヒルの足を出す)

悪事がばれそうになると浅知恵で人をだまそうとするという意味で、見出しでも「오리발 내밀다(アヒルの足を出す)」と「오리발(アヒルの足)」という形で本来の意味で用いられている。「음주사고 내고 오리발

내민 공무원(飲酒運転で事故を起こしアヒルの足を出した公務員)」のように最初は被疑者が容疑を否認し、結局は嘘がばれてしまったという場合に引用される。見出しでは特にスキャンダルや不正等が発覚した著名人が取り上げられることが多く、すぐに嘘だと分かるのに本人が否定している、又は否定していたが嘘だと分かった時に喩えられている。

(16) 떡 줄 사람은 생각도 않는데 김치국부터 마신다(餅をくれる人は考えてもいないのにキムチ汁から飲む)

早合点するということであるが、見出しでは「김치국(キムチ汁)」もしくは「김치국부터 마시다(キムチ汁から飲む)」の形で、主に、確かな根拠のないまま勝手に結論付けることに対して批判する際に引用されている。「정치불신 여전한데…A 당 벌써 김치국(政治不信に変わりはないのに…A 党既にキムチ汁)」は、まだ選挙までずいぶん時間があるのに勝ちを確信して傲慢な態度を取っている党を批判したものである。この他に確かな根拠もないのに自分に有利なように解釈し、世論の注目を浴びようとメディアに発表した企業や政府機関を批判する際にも引用されている。

(17) 우물을 파도 한 우물을 파라(井戸を掘るにしても一つの井戸を掘れ)

何事でも一つのことに励めば成功するという意味で、見出しでは「한 우물(一つの井戸)」または「한 우물을 파다(一つの井戸を掘る)」の形で、ある一つの分野に長期に渡り専念してきた人や企業を紹介する際に引用されている。「보청기분야 20 년 한 우물…4 년연속 매출 1 위 달성(補聴器分野 20 年、一つの井戸…4 年連続売上げ 1 位達成)」は、外資系の補聴器製造販売会社の支店の中で売上げ 1 位を続けている地方の小さな支店を紹介したものである。見出しではこのことわざと共に分野や年数が併記されることが多く、本文で経済的に厳しい時期を乗り越えた過程や成功の秘訣が紹介されることが多い。

(18) 호랑이 굴에 (들어)가야 호랑이를 잡는다(虎穴に入ってこそ虎を捕まえる)

危険を冒さなければ大きな成果は得られないという意味で、見出しでは「호랑이 굴(虎穴)」または「호랑이 굴에 (들어)가다(虎穴に入る)」の形で、敵陣に攻め入って勝負するという文脈で引用されている。「호랑이 굴에 간 오바마 “재계, 책임감 발휘해야” (虎穴に行ったオバマ、“財界責任感を発揮すべき”)」は、米大統領のオバマ氏が自身の政権に批判的な米国商工会議所で演説した内容を紹介したものである。このように「호랑이 굴(虎穴)」は、自分に対して敵意を抱いている集団を喩えている場合もあれば、企業では激しい競争が予想される分野や地域に参入する喩えとして、スポーツでは相手チームのホームグラウンドの喩えとして引用されている。

4. 見出しにおける「語彙の置き換え」

4. 1. 名詞との置き換え

(19) 가지 많은 나무에(가) 바람 잘 날 없다(枝の多い木に(が)風の静まる日なし)

子供の多い親は心配事が絶えないという意味であり「가지(枝)」は「子供」を、「나무(木)」は「親」を象徴している。見出しでは「가지 많은 나무에(가) (枝の多い木に(が))」と、団体やその長とが置き換えられており、ある団体やその長がそこに所属している人の不祥事によって頭を痛めている際に引用されている。「측근비리에 바람 잘 날 없는 A(側近不正に風の静まる日のない A)」で、A は大統領候補であるがその「子供」と言える側近の不正が相次いで発覚し、大統領選の不安要素となっているというものである。本来の意味とは若干異なり単に不祥事が相次ぐ時に引用された例も見られた。「바람 잘 날 없는 B 과거 성적(風の静まる日のない B の過去の業績)」は、大統領候補 B に関する過去のスキャンダルを暴露した内容であるが、これは単に次から次へと問題が発覚しているという比喩であり、自分の部下の不祥事で頭を悩ませているわけではない。

(20) 같은 값이면 다홍치마(同じ値段なら赤色のスカート)

同じ値段であれば品質の良い物を選ぶということで、見出しでは「다홍치마(赤色のスカート)」と、類似商品の中で最も売れている物とが置き換えられている。「자동차보험시장 부익부 빈익빈 같은 값이면 대형사(自動車保険市場、富む者が益々富み貧しい者が益々貧しくなる、同じ値段なら大型社)」は、どうせ同じ保険料を支払うのなら大手の保険会社が信頼できると考えて大手と契約する人が増えているというものである。

「같은 값이면(同じ値段なら)」が「どうせなら」という意味で引用された例もあるが、この例のように字面通り、「似たような価格ならば」「同じ条件ならば」という意味で、消費者がなぜ複数の商品の中からその商品を選択したのかの理由が本文で言及され、最近の消費動向を分析したものがほとんどである。

(21) 개 팔자가 상팔자(犬の運命が幸運)

このことわざは「오뉴월 개 팔자가(5・6月の犬の運命)」と表現することもあり、陰暦の5・6月は最も暑い時期で農耕社会においては猫の手も借りたいほど忙しい農繁期であった。この時期に涼しい木陰で昼寝をしている犬がうらやましく見えたところから自分が苦勞している時や大変な時に自分の人生を卑下する際にこのことわざは引用される。見出しでは、本来の用いられ方ではなく、「판다가 쫄 빠진 케이크, 전분・콩・영양제까지 ‘판다 팔자가 상팔자’ (パンダがはまったケーキ、澱粉・豆・栄養剤まで ‘パンダの運命が幸運’)」のように「개(犬)」がまるで人間の如く好待遇を受けている動物と置き換えられている。語彙の置き換えは、人間扱いされている動物を紹介する記事でしか引用されないため極めて限定された用例しかない。

(22) 고래 싸움에 새우등 터진다(鯨の争いでエビの背中が裂ける)

何の関係もない弱者が巻き添えを食うという意味であり、見出しでは「고래(鯨)」と強者とが、「새우(エビ)」と弱者とが置き換えられ、前者

が後者にマイナスの影響を与える場合に引用されている。見出しでは企業に関するものが多く「대기업 다툼에 애플 개발 중소기업체 등 터진다(大企業の争いでアプリ開発の中小業者の背中が裂ける)」のように「고래(鯨)」と「大手企業」、「새우(エビ)」と「中小・零細企業」または「消費者」が置き換えられたものがほとんどある。この他に強者と弱者の比喩として「政府」「政党」と「国民」、「学校」「教育委員会」と「学生」等と置き換えられた例も見られた。

(23) 고양이 목에 방울 달기(猫の首に鈴をつける)

実現するのが難しいことを徒に議論するという意味であるが、見出しでは「고양이(猫)」と、人、団体、検察や警察等の公権力とが置き換えられている。置き換えられた人や団体は権力者や大企業が多いが、見出しの主体にとって敵に回すのを恐れている相手であれば制限はない。「이명박, ‘강부자’ 목에 방울 달 수 있을까?(イミョンバク、‘江南地域の資産家’の首に鈴を付けることができるか)」のように絶対的権力者である大統領が資産家の反発を恐れているという文脈ではこのことわざを引用できるのである。スポーツ分野では「고양이(猫)」と、首位を独走しているチームや最近勢いのある選手とが置き換えられる場合が多い。「A 목에 방울 달까(Aの首に鈴を付けるか)」は、ライバルチームやライバル選手が果たして A を止めることができるのかということであるが、このことわざを引用することによって読者の興味を引き付けるものとなっている。

(24) 구슬이 서 말이라도 꿰어야 보배(玉が 3 斗あってもつないでこそ宝)

真珠がどんなにたくさんあっても、それをつないで初めてネックレスになるようにどんなにいい物でも使えるようにしないと価値がないという意味で、見出しでは「구슬이 서 말(玉が 3 斗)」と、点在している物とが置き換えられ、分散しているものを一点に集中させてこそ効果が現れるという文脈で引用されている。「쏟아지는 뉴스, 옥석가려 꿰어야

보배초(溢れるニュース、玉石選り分けつないでこそ宝です)」は、意味のある情報のみを集めて初めて価値が生まれるという内容であるが、似たような文脈で置き換えられた名詞は「콘텐츠(コンテンツ)」「데이터(データ)」「정보(情報)」「자료(資料)」「아이디어(アイデア)」「지원(支援)」等であった。

(25) 굴러 온 돌이 박힌 돌 뺀다(転がって来た石がはさまった石をはじき出す)

外部から入って来た人がそれまでいた人を追い出すという意味であり、前者の「돌(石)」は「新参者」を、後者の「돌(石)」は「古株」を象徴している。見出しでは「돌(石)」と、企業や商品とが置き換えられた例が多く見られた。「굴러온 ‘수입차’ 박힌 ‘A’ 뺀다(転がって来た‘輸入車’はさまった‘A’はじき出した)」は、国内の自動車会社 A が外資系企業の国内参入によって危機を迎えているというものである。このように企業の場合であれば新規参入してきた企業がそれまで業界で中心的な存在であった企業にその座を奪われた場合に用いられる。同様に商品であれば圧倒的なシェアを誇っていた商品が新商品にとって代わられた場合にこのことわざが引用されている。

(26) 귀신이 곡할 노릇(鬼神が哭する出来事)

摩訶不思議な出来事という意味であり、見出しでは「노릇(出来事)」と、常識では理解できない出来事とが置き換えられている。「산기평 관용차 ‘귀신이 곡할 차’ 주행거리 조작 의혹(産技評‘鬼神が哭する車’走行距離捏造疑惑)」は、韓国産業技術評価管理院の役員が乗車する官用車の走行日誌に記録された走行距離と実際の走行距離とは全く異なっていた事が発覚したというものである。一部の役員が官用車を私用車として使っていたということであるが、このように不正を皮肉る場合に引用されている。この他にスポーツの分野では「역전(逆転)」や「경기(競技)」と置き換えられることが多く、劇的な逆転勝利や常識では考えられない試合結果を伝えたり、「드라마 ‘49 일’ 귀신이 곡할 캐스팅 비밀 “배우

들 생일 다 9 일” 화들짝(ドラマ ‘49 日’ 鬼神が哭するキャスティングの秘密 “俳優の誕生日が全て 9 日ビックリ)」のように読者の興味をそそる見出しでも引用されている。

(27) 꿀 먹은 병어리(はちみつを食べた口のきけない人)

本来の意味は心の中で思っていることを表現できないことであるが、見出しでは「병어리(口のきけない人)」と、やましいことがあって何も言えない人や団体とが置き換えられ、このような人や団体を皮肉る際に喩えられている。「과학벨트·신공항·LH 이전…갈등 커지는데 ‘꿀먹은 靑’ (科学ベルト・新空港・韓国土地住宅公社移転…葛藤広がるのに ‘はちみつを食べた靑瓦台’)」は、政府が懸案となっている政策についてはっきりとした方針を打ち出せずにいることを批判したものである。政党の所属議員や企業の社員が不祥事を起こし、それを党や企業が庇ったり事実を隠蔽したりしている際に喩えられることも多く、このことわざを引用することによって疑惑を強調している。

(28) 금강산도 식후경(金剛山も食後の見物)

どんなに楽しいことでもお腹が満たされて初めて楽しめるという意味であるが、見出しでは「금강산(金剛山)」と、観光地とが置き換えられ本文で観光地と関連した食べ物や食堂を紹介する場合に引用されている。

「엑스포도 식후경…전 세계의 맛 여수에 모였다(万博も食後の見物…世界中の味、麗水に集まる)」は、万博そのものも見所満載であるが万博会場では世界各国の食べ物も楽しめるという内容である。「금강산(金剛山)」は「쇼핑(ショッピング)」のような行為と置き換えられることもあるが、これも百貨店や大型スーパー内のレストラン街を紹介する内容となっている。このことわざは上記の意味以外に腹が減っては戦ができぬという意味で使われることもある。例えば「대선 (大統領選)」と置き換えられた例では、選挙運動に臨む前にせわしく食事をする様子が報じられている。

る。

(29) 나이 이길 장사 없다(年に勝つ壮士はいない)

どんなに丈夫な人でも年には勝てないという意味であり、見出しでは「나이 이길(年に勝つ)」と、「～には勝てない」という文を作ることができる名詞とが置き換えられている。置き換えられる語彙は「불황에(不況に)」「경기둔화에(景気鈍化に)」「주가 하락에(株価下落に)」等、対抗する術や打つ手がない現象に関する語彙や「공짜 앞에(無料の前に)」「술에(酒に)」「음식 앞에(食べ物の前に)」のように個人的な欲望からの誘惑に関する語彙が多くを占めている。この他にわずかではあるが、「신당 입당 A “국민 이길 장사 없다” (新党入党 A(政治家) “国民に勝つ壮士はいない”)」のように「나이(年)」を他の名詞と置き換えた例が見られた。

(30) 남의 잔치에 감 나라 배 나라 한다(他人の宴会に柿を並べろ梨を並べろと言う)

他人の事に口出しするという意味で、見出しでは「남의 잔치(他人の宴会)」と、口出しする人の権限ではない領域とが置き換えられている。「학부모가 추천서에 감 나라 배 나라, 美선 상상도 못할 일(父兄が推薦書に柿を並べろ梨を並べろ、米国では想像もできない事)」は、推薦状を書くのは推薦者である教員であるのに推薦状に書く内容についてあれこれ口出しする父兄を批判したものである。この他にこのことわざを引用した個人の発言が見出しに使われる事がある。「A 의원 “靑, 다음 정권 일까지 ‘감 나라 배 나라’ 하나” (A 議員 “靑瓦台、次の政権の事にまで ‘柿を並べろ梨を並べろ’ と言うのか”)」は、与党議員が政府を批判したものであるが、このように政治家や政府高官が自分たちの立場を考慮して直接的な表現を避けるためにこのことわざを引用し、その発言の一部を見出しにそのまま掲載することがある。

(31) 다 된 밥에 재 뿌린다(すっかりできあがったご飯に灰をかける)

事が上手く運んでいてももう少しで完成するという段階で台無しにして

しまうという意味で、見出しでは「다 된 밥(すっかりできあがったご飯)」と、それまで順調に進んでいたのにもう一步の所で失敗に終わった出来事とが置き換えられている。「요금 현실화에 재 뿌린 공기업들(料金現実化に灰をかけた公企業)」は、これまで政府が電気料金等の公共料金の引き上げ案に対して国民の理解を得ようと努力していた矢先、放漫な経営で赤字を出している公企業においてインセンティブ支給額が増加していたという事実が発覚し、公共料金の引き上げが厳しくなったことを批判している。この他に否定的な問題が解決しそうだったのに問題が再燃した場合にも引用されている。特に不祥事を起こした団体が信頼を回復するために努力をしてきて、もう少しで信頼が回復できそうだった矢先、誰かが問題を起こして再び信頼を失った場合の引用が多い。

(32) 도둑이 제 발 저린다(泥棒は足がしびれる)

悪いことをすると気が咎めてばれてしまうという意味で、見出しでは「도둑 (泥棒)」と、やましいことがある人との置き換えられている。「제 발 저린 도박주부 추락사(足がしびれた賭博主婦転落死)」は、賭博をしていた主婦が周辺を巡回していたパトカーを見て取り締まりに来たと勘違いし、逃げている途中で転落死したというものである。このような文脈では「마약복용 40 대(麻薬服用の 40 代)」「빈집털이범(空き巣犯)」「범인(犯人)」等、犯罪者と置き換えられている。この他に政党、政府機関、企業等と置き換えられているが、見出しではやましい事が何なのか明示されていない場合がある。例えば「제 발 저린 법무부의 취재통제(足がしびれた法務部の取材統制)」では、法務部が何かをつつかれることを恐れて取材統制という行動を取ったという事しか書いていないが、こうする事によって一体何をやらかしたのだらうという興味を引く見出しとなっている。

(33) 더도 말고 덜도 말고 늘 한가위만 같아라(多からず少なからずいつも秋夕のごとくあれ)

秋夕(盆)の日は暑くもなく寒くもなく、衣食も豊かに楽しく遊んで過

ごすので、いつもそのように暮らすことができればという願望を表すものであるが、見出しでは「한가위(秋夕)」と、理想的な最も良い時期とが置き換えられて、このまま続いて欲しいという喩えで引用されている。

「5 연승 A 팀, 더도 말고 덜도 말고 요즘만 같아라(5連勝Aチーム、多からず少なからず最近のごとくあれ)」は、このまま勝利が続いて欲しいというプロ野球チーム A の気持を喩えたものであるが、このような使い方は自分が今最もいい状態であるという場合に適用されたものであり、「요즘(最近)」「지금(今)」と置き換えられた例がほとんどである。この他に自分の理想とする基準と置き換えて、自分もそうになりたいという文脈でも引用されている。「더도 말고 덜도 말고 金만 같아라…보유고 확대·달러하락 계속(多からず少なからず金のごとくあれ、保有高拡大・ドル下落継続)」では世界的に低迷が続いている金融市場にとって金はまさに理想であるということである。

(34) 뛰는 놈 위에 나는 놈 있다(走る者の上に飛ぶ者がいる)

どれ程才能がずば抜けていても上には上がいるという意味であるが、見出しでは前半の「놈(奴、者)」と才能や業績を認められた人や団体とが、後半の「놈(奴、者)」とそれを上回る人や団体とが置き換えられている。「뛰는 A 차 위에 B 전자? 매출격차 10 년새 10 배(走るA車の上にB電子、売上格差10年で10倍)」は、両者共に韓国を代表する財閥であり、Aの売上も業界ではトップクラスであるがBの売上はそれをはるかに上回るというものである。本来の意味から言えば「놈(奴、者)」と置き換えられるのは才能を認められた人であるはずだが、見出しでは「뛰는 도둑놈 위에 나는 공갈범이 있다(走る泥棒の上に飛ぶ恐喝犯がいる)」のように犯罪の手法のあくどさを強調するためにこのことわざが引用される例が多く見られた。

(35) 백지장도 맞들면 낫다(紙一枚も一緒に持てば軽い)

たやすいことでも共同で行えばもっとたやすくできるという意味であるが、見出しでは「백지장(紙一枚)」と、他の人と協力して行う行為、

特に協力し合うことによって経済的メリットがある行為とが置き換えられている。「마케팅도 맞들면 낫다? 기업 제휴 붐(マーケティングも一緒に持てば軽い、企業提携ブーム)」は、消費者の心をつかむのが容易ではない現状で他業種はもちろんライバル企業であっても手を組んで共同でマーケティングをすることによって消費者の多様なニーズを把握しようとする企業が増えているという内容である。リスク低減のために各企業が出資し合って共同経営したり個人レベルでも起業したい人同士が共同で会社を運営する場合の引用が多数見られた。

(36) 세 살 버릇 여든까지 간다(3歳の時の癖が80歳まで続く)

幼い時から悪い癖がつかないように教育しなければならないという意味で、見出しでは「버릇(癖)」と、子供に身につけさせるべき肯定的習慣、または放っておくと将来悪影響を及ぼす可能性のある不安要素とが置き換えられている。前者に相当するのは「세 살 건강습관 여든까지 간다(3歳の時の健康習慣が80歳まで続く)」で、この他に「독서습관(読書習慣)」「배변 습관(排便習慣)」「재테크(財テク)」等との置き換えの例が見られた。後者に相当するのは「세 살 충치 여든까지 간다(3歳の時の虫歯が80歳まで続く)」で、この他に「편식(偏食)」「맞은 기억(叩かれた記憶)」等との置き換えが見られた。

(37) 우물 안 개구리(井の中の蛙)

広い世の中の事を知らない人のことであるが、見出しでは「개구리(蛙)」と、見識の狭い人とが置き換えられている。「외교정책 없는 ‘우물안 후보들’ (外交政策のない‘井戸の中の候補たち’)」は、国内の問題ばかりを取り上げている大統領候補を批判したものである。このように自分の所属する地域や範囲のことしか考えていないことを批判する見出しが多く見られたが、これとは反対にこれまでは井の中の蛙であったが今後は視野を広げようとしている肯定的な例も見られた。「우물 안 공공기관 외국기업과 비교평가 확대(井戸の中の公共機関外国企業と比較評価拡大)」は、自らを閉鎖的だったと認めて海外でも通用するように改善する

努力をしているというものである。

(38) 원님 덕에 나팔[나팔] 분다(殿様のおかげでラッパを吹く)

他人のお陰で身に余るぜいたくをするという意味であり、「원님(殿様)」と、自分に経済的利益をもたらしてくれた相手とが置き換えられている。主に企業の収益が急に上がった理由を取り上げる際に引用されている。

「A 직원들 B 덕에 나팔(Aの社員らBのおかげでラッパ)」は、自社製品の焼酎Bが大ヒットし、酒造会社Aに莫大な利益をもたらしてくれたという内容である。ここでは自分の会社の主流商品が利益の原因となっているが、他の企業や何らかの要因で利益を得た場合や企業ではなく個人の消費者が得した場合にも引用される。この他に証券市場での引用も見られた。「A 덕에 나팔…강한 반등(Aのおかげでラッパ…強い反騰)」は、A社の経営者が業績の好転を発表するやA社の株価が急騰し他社の銘柄も上昇し、株価全体を吊り上げたという内容で、「원님(殿様)」と、平均株価や特定の銘柄の株価が上がる原因とが置き換えられた例が見られた。

(39) 원수는 외나무다리에서 만난다(仇は一本橋の上で出会う)

嫌な相手にはどこかで必ず会うようになっているという意味であるが、見出しでは「원수(仇)」と、対決する相手同士とが置き換えられ、両者の対決に注目が集まるように大袈裟な比喻となっている。特にスポーツでの引用が多く、「외나무다리에서 만난 A-B, 4년 만에 FA 컵 결승 리턴매치(一本橋の上で出会ったA-B、4年ぶりにFAカップ決勝リターンマッチ)」は、両チームの因縁の対決であることを強調している。対決であれば政治の世界でも引用できる。「A 구 외나무다리에서 만난 B-C(A区の本橋の上で出会ったB-C)」は、最近世間の注目を集めているBとCがA区の区長選に立候補し、この両者が同じ選挙区で争うことになったというものである。両者の対決がいかに関心深いかを強調した見出しとなっている。

(40) 자라 보고 놀란 가슴 솥뚜껑 보고 놀란다(スッポンを見て驚いた者が釜の蓋を見て驚く)

ある物に驚いた人はそれと似た物を見ただけで怖がるという意味であるが、見出しでは「자라 보고 놀란 가슴(スッポンを見て驚いた者)」と、一度ひどい目に遭い必要以上に用心深くなっている人、団体、自治体、国等とが置き換えられている。「솥뚜껑 보고 놀란 일본…北 2 차핵실험 오보소동(釜の蓋を見て驚いた日本…北 2 次核実験誤報騒動)」は、一度目の核実験に懲りた日本が実際には二度目の核実験が行われていない段階で必要以上に敏感に反応したというものである。この他に、証券市場と置き換え、投資家が過去の経験から過敏に反応しすぎて株価が下落したり投資を控えたりする際に引用されている。

(41) 종로에서 뺨 맞고 한강에 가서 눈 흘긴다(화풀이한다) (鐘路で頬をぶたれて漢江でにらみつける(腹いせをする))

誰かに辱めを受けてそこでは黙っていて、別の所で憤慨するという意味であるが、見出しでは「종로(鐘路)」と成果や結果が思うように出ない相手とが、「한강(漢江)」と成果や結果を出した相手、またはこれから出そうとする相手とが置き換えられた例が多数を占めた。スポーツ等の対戦では単純に勝敗を表す見出しで引用されている。「A, B 에 뺨 맞고 C 에 화풀이(A, B に頬をぶたれて C に腹いせ)」で、B は A が負けた選手やチームが、C は A が勝った選手やチームが来る。似たような文脈で「美, 對이란 제재…中서 뺨맞고 日서 화풀이?(米、對イラン制裁…中で頬をぶたれて日で腹いせ)」は、イラン産の原油禁輸措置への協力を中国に断られた米国が中国では成果が得られなかった分、日本で結果を出そうと圧力をかけるという内容である。ここでは「한강(漢江)」は結果を出すために圧力をかける相手として喩えられている。

(42) 티끌 모아 태산(塵を集めて泰山)

どれほど小さいものでも集めれば大きな塊となるという意味であるが、見出しでは「태산(泰山)」と、コツコツと貯めた財産とが置き換えられ

た例がほとんどであり、「티끌(塵)」が少額のお金という喩えで引用されている。「A 군 장학금 조성 티끌 모아 29 억원(A 郡奨学金造成、塵集めて 29 億ウォン)」は、15 年かけて地域住民、商人、公務員等が協力し合って奨学基金を捻出したというものである。この他に「태산(泰山)」を、「장학금(奨学金)」「기부(寄付)」等、貯まったお金で行う行為と置き換えた例も見られた。

(43) 하늘의 별 따기(空の星取り)

何かを手に入れたり成し遂げるのが極めて難しいという意味であるが、見出しでは「하늘의(空の)」と、手に入れるのが困難な物や達成するのが難しい行為とが置き換えられている。「아무리 발품 팔아도 전세집 마련 ‘별 따기’ (いくら探しまわってもチョンセ【賃貸契約方法の一つ】は‘星取り’)」は、入居希望者が殺到して賃貸住宅が不足しているというものであり、家を購入できない人たちの現状を訴えている。置き換えられる名詞は単に最近人気が高まっている物やことの場合もあるが、多くは経済的弱者や庶民にとって手に入りにくい物となっている。

4. 2. 名詞と用言の両方との置き換え

(44) 개구리 올챙이 적 생각 못한다(蛙はおたまじゃくしの頃を思い出せない)

現在成功している人が苦労した頃の事を忘れてあたかも初めから成功していたかの如く振舞っているという意味であるが、見出しでは「개구리(蛙)」と、成功を収めた著名人や出世した上役とが置き換えられている。この他に「생각(考え)」と「기억(記憶)」の置き換え、「하다(する)」と「잊다(忘れる)」「모르다(知らない)」「알다(知っている)」等との置き換えが見られた。「올챙이 적 모르는 상사 싫어(おたまじゃくしの頃を知らない上司嫌い)」は、自分が苦労した頃の事を忘れている人を批判したもので、本来の意味のまま引用されている。しかしながら「올챙이 시절 잊지 않는 A, 1 억원 기부(おたまじゃくしの時代を忘れない A(芸能人)、1 億ウォン寄付)」や「올챙이 적 아는 관리자(おたまじ

やくしの頃を知っている管理者)」は、まだ芽が出ていない頃、つまり下積みの頃を忘れていないという意味で、本来の意味とは反対に誰かを称賛する文脈で引用されている。

(45) 똥 묻은 개가 겨 묻은 개 나무란다(糞まみれの犬が糠まみれの犬をとがめる)

自分の欠点は棚に上げて相手の欠点を指摘するという意味であるが、見出しでは「개(犬)」と、お互いに非難し合っている人や団体とが置き換えられている。また「나무란다(とがめる)」と、「꾸짖다(叱る)」「훈계하다(訓戒する)」「홍보다(欠点をあげつらう)」等、相手を批判する動詞とが置き換えられた例が見られた。「똥묻은 A 당, 겨묻은 B 당 연일 맹공(糞まみれの A 党、糠まみれの B 党を連日猛攻)」は、定例記者会見において A 党が自分の党の不祥事に関する言及は最低限に留め、B 党の不正選挙に関しては連日しつこく批判を繰り返しているというものである。このように見出しでは特に政府機関、政党、政治家同士の醜い争いを取り上げている場合が多く、国民から見るとどっちもどっちだと嘲笑する際に引用されている。

(46) 믿는 도끼에 발등 찍힌다(信じる斧に足の甲を切られる)

信じていた人に裏切られるという意味で、見出しでは「도끼(斧)」と、信じていた人とが置き換えられたものと、「믿는 도끼에(信じる斧に)」と、「믿다가(信じていて)」「믿으면(信じると)」「動詞+다가(～ていて)」とが置き換えられたものが見られた。前者に相当するのは「믿는 변호사에 발등 찍힌다(信じる弁護士に足の甲を切られる)」で、これは専門家だと信じて依頼した弁護士の不手際で訴訟自体が却下され結局その弁護士を訴えて勝訴したというものであるが、この他に政府、大手企業またはその製品、放送局等、一般に信頼性の高いと見做される物・機関と置き換えられている。用言との置き換えは「수익형 부동산 투자 고수익 믿다가 발등 찍힌다(収益型不動産投資高収益を信じて足の甲を切られる)」のように経済的損失への注意を促す内容のものが多く見られた。

(47) 뱀새가 황새 따라가면 가랑이가 찢어진다(ダルマエナガがコウノトリについて行くと股が裂ける)

人のまねをして自分の能力以上のことをするとひどい目に合うということから「ダルマエナガ」は憧れの存在に追いつきたいと思って無理をする人を、「コウノトリ」は憧れの存在を象徴している。見出しではそれぞれ学校、地方自治体、国、企業等と置き換えられており、前者が後者を憧れている訳ではなく、後者が先に導入した制度に追随しようとして無理をするという文脈で引用されている。「지방 국립대 A 대 따라가면 가랑이 찢어진다(地方の国立大 A 大について行くと股が裂ける)」は、国立大の最高峰である A 大学が低所得家庭の学生に対する奨学金制度を発表したことから追随して同制度を導入しようとした地方大の厳しい財政事情を紹介したものであり、A 大学に追いつこうとしている地方の国立大という意味ではない。「따라가면(ついて行くと)」が「따라가다(ついて行って)」となったり、わずかではあるが「쫓아가다(追いかける)」や「흉내내다(真似する)」と置き換えられた例もあった。

(48) 빈대 잡으려다 초가삼간 다 태운다(南京虫を捕まえようとして藁屋を全て燃やす)

気に入らない物を取り除こうとしてかえって大きな損害を被るという意味であるが、見出しでは「빈대 잡으려다(南京虫を捕まえようとして)」と、全てを台無しにした行為とが置き換えられており、置き換えられた行為は名詞形のものと、用言に「(으)려다」を接続したものが見られた。見出しでは自分の邪魔になる物を除去するのではなく、単に一つの事に固執する余り全てが台無しになるという文脈で引用されている。「A 은행 성과급 도입하려다 초가삼간 다 태우나(A 銀行インセンティブ導入しようとして藁屋を全て燃やすか)」は、制度導入により一步間違えば倒産する可能性があるというものである。元のことわざでは主語が省略されており主語自身が駄目になるわけではないが、見出しでは主語が明記されている場合が多く、主語自身の存在そのものが無くなるかもしれ

ないという場合が多い。

(49) 옷깃만 스쳐도 인연(襟がわずかに触れても縁)

人との出会いは大切にしなければならないという意味であるが、見出しでは「인연(縁)」と、著名人によってもたらされた結果とが置き換えられて、著名人が間接的に与えた影響を取り上げている。「A 옷깃만 스쳐도 상한가(Aの襟がわずかに触れても上限価)」は、大統領候補である A の親族が経営している会社や A が打ち出している公約と関係のある企業の株価が急騰したという内容である。似たような文脈で「A 옷깃만 스쳐도 대박(Aの襟がわずかに触れても大ヒット)」は、著名人である A が身につけていた物や A が試したことのあるダイエット法が流行するというものである。これ以外に本来とは全く異なる用法で物理的に接触するという意味で引用されることがある。「옷깃만 스쳐도 아프다면 신경장애성 동통(襟がわずかに触れても痛いのなら神経障害性疼痛)」は、単に少し触れただけでもという意味である。

(50) 쥐구멍에도 별 들 날이 있다(鼠の穴にも陽光が差し込む日がある)

今は苦しくても必ず運が好転する日が来るという意味で、見出しでは「鼠の穴」と、現在自分が置かれている環境が厳しくて希望の光が見えずに苦しんでいる状態にある名詞とが置き換えられており、特にその厳しさが経済的に苦しい状態である場合が最も多い。「있다(ある)」を「없다(ない)」や「오다(来る)」と置き換えた例もあった。「별 들 날 없는 구멍가게(陽光が差し込む日がない個人商店)」は、大型スーパーに押されて生き残りが厳しい個人商店の現状を報告したものである。似たような文脈で「주권 거래 재개 A 별 들 날 올까?(株券取引再開 A、陽光が差し込む日が来るか)」は、上場廃止の危機に立たされている企業が果たして再起できるのかという内容であり、業績が低迷している企業に対しても引用されている。

4. 3. 縮約と語彙の置き換えの両方

(51) 공든 탑이 무너지라(精魂込めて建てた塔が倒れることがあろうか)

真心を込めてした事が無駄に終わるようなことは決してないという意味であるが、見出しでは「공든 탑(精魂込めて建てた塔)」の形で引用された例と、「무너지다(倒れる)」と、「무너뜨리다(倒す)」「부수다(壊す)」等とが置き換えられた例が見られた。「A 조선에 3년 공든탑 ‘와르르’ B사가 얻은 것과 잃은 것(A造船に3年精魂込めて建てた塔ガラガラB社が得た物と失った物)」は、縮約の例であるが、B社はこれまでA造船のM&Aを進めていたが本入札締め切り後に突然離脱を宣言したというものである。このように「공든 탑(精魂込めて建てた塔)」は、時間と労力をかけてこれまで築き上げてきたものという喩えで引用されている。「민주 “MB 4년, 南北 10년 쌓은 공든탑 부숴” (民主、李明博政権の4年、南北10年かけて築いた精魂込めた塔を壊した)」は、語彙の置き換えの例であるが、精魂込めて建てた塔は倒れるわけがないという本来の意味とは異なり他動詞と置き換えることによってそれまで築き上げてきたものを台無しにしてしまったという失策を強調している。

(52) 될성부른 나무는 떡잎부터 알아본다(見込みのある木は双葉の頃から見分けがつく)

大成する人は幼少の頃から並外れた将来性が垣間見えるという意味であり、見出しでは「될성부른 나무(見込みのある木)」の形で引用された例と、「될성부른 나무(見込みのある木)」と人物とが置き換えられた例、「알아보다(見て分かる)」と「다르다(違う)」、「남다르다(並はずれている)」とが置き換えられた例が見られた。見出しにおいて「될성부른 나무(見込みのある木)」は、将来の活躍が期待される人、もしくは既にある程度の成功を収めた人を象徴しているため、語彙の置き換えでもこれに該当する人物と置き換えられている。「A 선수 10살 때 축구경기, 어릴 때부터 남달라 ‘될성부른 나무’ (A選手10歳の時のサッカー競技、幼い時から抜きんでる、‘見込みのある木’)」は、縮約の例であるが、

世界的に活躍しているサッカー選手 A が小学生の時からプロ顔負けだったということである。縮約は人物だけでなく投資する価値のある将来性が見込める分野という喩えでも引用されている。上記のサッカー選手の見出しを語彙の置き換えにした例が「A 선수 10 살 때 축구경기, 떡잎부터 달랐던 축구황제(A 選手 10 歳の時のサッカー競技、双葉の頃から違ったサッカーの皇帝)」であるが、幼い頃から周りの子供と比べて人並み外れた才能が垣間見えていた事を紹介する際に引用されている。

(53) 밑 빠진 독에 물 붓기(底の抜けた甕に水を注ぐ)

いくら労力をかけても無駄に終わるという意味であるが、見出しでは「밑 빠진 독(底の抜けた甕)」の形で引用された例と、「독(甕)」、「물(水)」がそれぞれ置き換えられた例が見られた。「밑 빠진 독 그리스, 3 차 구제금융 받을까(底の抜けた甕ギリシャ、3 次救済金融受けるか)」は、縮約の例であるが、ギリシャ経済が火の車だという内容である。縮約の前後に企業、自治体等の固有名詞が来ることが多く、その固有名詞が借金まみれで不健全な財政状況にあるということを指している。語彙の置き換えでは「독(甕)」と破綻寸前の団体とが置き換えられたものと、「물(水)」と「돈(お金)」や「세금(税金)」とが置き換えられた例が見られた。このように見出しでは本来の意味を経済面に限定していくらお金をつぎ込んでも破綻寸前だという意味で喩えられている。

(54) 선무당이이 사람 잡는다(未熟なシャーマンが人を殺す)

生半可な知識や技術に頼って物事を行うとかえって大失敗をするという意味であり、見出しでは「선무당(未熟なシャーマン)」の形で引用された例と、「사람(人)」と、批判する対象が素人であるせいで台無しになったもの、またはその可能性があるものとが置き換えられた例が見られた。「선무당 문화부 산하 기금, 부동산・주식 투자 손실(未熟なシャーマン文化部傘下基金、不動産・株式投資損失)」は、縮約の例であるが、このように「선무당(未熟なシャーマン)」の前後に固有名詞が来ることが多く、その人や団体が素人であることを強調する場合に用いられてい

る。「A 후보 선무당이 국민 잡는다(A 候補未熟なシャーマンが国民を殺す)」は、語彙の置き換えの例であるが、政治経験のない A 候補がもし大統領になれば国民を破滅に追い込む可能性があるという危機感を煽る内容となっている。

(55) 신선 놀음에 도끼 자루 썩는 줄 모른다(神仙遊びに斧の柄が腐るのも知らない)

面白いことに心を奪われて月日のたつのも忘れるという意味であるが、見出しでは「신선 놀음(神仙遊び)」の形で引用された例と、「신선」と「대권(大統領選挙)」「공천(公認)」等とが置き換えられた例が見られた。「팔도 전통주 맛보며 ‘신선놀음’ (八道の伝統酒を味わいながら神仙遊び)」は、縮約の例であるが、ある地方の祭りの開催期間中に催されるイベントを紹介したものである。このように見出しではおすすめのリゾート地やイベントを紹介する場合に引用されることが多く、このことわざを用いることで極楽を味わうことができそうなイメージを与えている。本来の意味とは異なり「A 시 간부 통합은 뒷전…골프신선놀음 ‘조으다’ (A 市幹部統合は後回し…ゴルフ神仙遊び ‘オモロイ’)」のように本来すべきことをせずに他の事にうつつを抜かしている事を批判する文脈でも引用されている。語彙の置き換えもこの文脈と同様、例えば「대권(大統領選挙)」との置き換えは政治に対する批判で引用されており、本分は果たさず自分たちの党から大統領を出そうと躍起になっている国会議員や党公認を巡って駆け引きをする議員を皮肉っている。

(56) 하늘이 무너져도 솟아날 구멍은 있다(空が崩れても飛び出る穴はある)

どれ程困難な状況に陥ってもそれを切り抜ける方法は必ずあるという意味であるが、見出しでは「솟아날 구멍은 있다(飛び出る穴はある)」の形で引用された例と、「하늘이 무너져도(空が崩れても)」と、厳しい状況を現す名詞または用言を「-아/어 도(ても)」の形にしたものが置き換えられた例が見られた。「‘상시위기’ 건설업계… “솟아날 구멍은

있다”(‘常時危機’建設業界…“飛び出る穴はある”)」は、縮約の例であるが、各建設会社の経営者が発表した新年の景況見通しを紹介したものである。これには大手建設会社の経営者たちが2012年を‘常時危機の時代’と定めてこれに対する経営戦略を打ち出したという背景があり、見出しではこのような危機の状態でも各社の戦略を総合するとまだ可能性があるということを示している。このように現在困難な状態にある主体と共に用いられてまだ困難を打開する策はあるという内容のものが多く、特にスポーツで連敗しているチームや低迷している株の銘柄が取り上げられることが多い。「불황에도 솟아날 구멍은 있다…명품으로 차별화 등(不況にも飛び出る穴はある…名品で差別化等)」は、語彙の置き換えの例であるが、「고유가에도(高油価にも)」「A에 밀려도(A[大手企業]に押されても)」「주식은 폭락해도(株式は暴落しても)」のように特に経済的に厳しい環境にある場合に引用されることが多い。

(57) 형만한 아우(가) 없다(兄ほどの弟はいない)

万事において兄より弟の方が劣っているという意味であり、見出しでは「형만한 아우(兄ほどの弟)」の形で引用された例と、「없다(ない)」と、「있다(ある)」「 많다(多い)」「되다(なる)」等とが置き換えられた例が見られた。見出しでは本来の意味とは異なり、兄と変わらないくらいの実力を有する弟を紹介する内容で引用されている。「형만한 아우…A 차도 상반기 사상 최대 실적(兄ほどの弟、A車も上半期史上最大の実績)」は、縮約の例であるが、自動車会社Aは財閥企業の傘下にあるが兄である財閥企業の業績に劣らず利益を上げたという内容である。「형만한 아우 있다, 2011 년 최고의 속편은?(兄ほどの弟いた、2011年最高の続編は)」は、語彙の置き換えの例であるが、この例のようにほとんどが「있다(ある)」と置き換えられている。兄と弟の関係は親会社と子会社以外に映画の本編と続編、ヒット商品と同商品の第二弾、大企業の株価と中小企業の株価等で経済的利益において劣っていないという文脈に限定されている。

5. おわりに

本稿では新聞報道を資料として「縮約」と「語彙の置き換え」について本来のことわざの意味、見出しにおける意味、ことわざで用いられている語彙の比喻、置き換えられる語彙の特徴、引用される見出しの特徴等を中心に解説した。対象としたことわざのうち、いずれにも類型化できない見出し独特の比喻が見られた。最後に紹介しておく。

(58) 약방에 감초(藥屋に甘草)

(59) 낙동강 오리알(洛東江の鴨の卵)

(60) 개천에서 용 난다(ドブから竜が出る)

(58)は、漢方薬に甘草が不可欠であるように欠くことのできないものという意味であるが、見出しでは「감초연기(甘草演技)」または「감초역할(甘草役割)」の形で出てくる。これは主役ではないものの、その作品には絶対に欠かせない役者の絶妙な演技を称賛するものである。

(59)は、野生の鴨が方々に卵を産み付けて顧みられないことから、人が後ろ盾を失ってすっかり落ちぶれてしまったという意味であるが、見出しでは「오리알 신세(鴨の卵の境遇)」という形で、冷遇される場合に引用されている。

(60)は、地位の低い家や平凡な家庭から立派な人物が出るという意味であるが、見出しでは「용됐다(竜になった)」の形で、成功した人を紹介する場合に引用されているが、純粋に褒めるのではなく皮肉を込めることが多い。

注

¹⁾ 「縮約」には「염불보다 젓밥(念仏より供え物)【辞書形は염불에는 마음이 없고 젓밥에만 마음이 있다(念仏には気がなく供え物にだけ気がある)】」のように辞書形の一部の語彙を用いて新たに作られた造語や「오리발 내밀다(アヒルの足を出す)」と「오리발(アヒルの足)【辞書形は닭 잡아 먹고 오리발 내밀다(鶏をつぶして食べてアヒルの足を出す)】」のように複数の「縮約」が存在するもの、縮約の形では本来の意味とは異なるものも含めることとする。

²⁾ 新聞の本文では本稿で扱う「縮約」や「語彙の置き換え」よりも辞書形で用いられていることが多かったため、見出しに限定した。

³⁾ 「ことわざ慣用語」についてイトンギユ(2005)は、「ことわざと慣用語の中間に位置し、元のことわざの意味を有しながらも形態的な簡潔さによってことわざに比べ使用頻度が高く、慣用語に比べて由来がはっきりとしており文化的特徴を具体的に提示できるという特徴を有する」と説明している。

⁴⁾ 「韓国語教育用ことわざ目録」には、10 大学(建国大、慶熙大、高麗大、ソウル大、西江大、鮮文大、成均館大、新羅大、延世大、梨花女子大)計 61 冊の韓国語~~テキスト~~、韓国語非母語話者用に作成された 3 冊のことわざ教材(『生きている韓国語—ことわざ[살아있는 한국어: 속담]』、『韓国語ことわざ 100 慣用語 100[한국어 속담 100 관용어 100]』、『ことわざで学ぶ韓国語 1、2[속담으로 배우는 한국어 1, 2]』)、韓国語能力試験(第 1 回から第 18 回)等の資料の中で 1 度でも用いられているものは全て含まれている。

⁵⁾ 一つの記事が複数のメディアで扱われている場合は同一のものと見做し、1 件と数えた。例えば、「가재는 종편(ザリガニは総編の味方)」という見出しは 7 件あるが、これは全てある著名人が종편(総編：総合編成チャンネルの略)を皮肉るために「가재는 게편(ザリガニは蟹の味方)」を文字って表現したものを複数のメディアが取り上げたにすぎない。

⁶⁾ 日本語に全く同じ意味を表すことわざが存在する場合も韓国語のことわざを構成する各語彙の意味を明らかにするために日本語訳は直訳に近いものとした。なお、日本語訳は小学館の『朝鮮語辞典』を、各ことわざの意味は国立国語院の『標準国語大辞典』を参照した。

参考文献

鄭芝淑(2008)「ことわざの異形」『多元文化』第 8 号、名古屋大学国際言語文化研究科、pp. 349-364.

조현용(2007)「한국어 속담 교육 연구」, 국제한국어교육학『한국어 교육』18-2, pp. 423-458.

이동규(2005)『중・고급 학습자를 위한 한국어 문화어휘 교육 -속담관용어 교육을 중심으로-』, 고려대학교 교육대학원 석사학위논문.

이종철(1998)『속담의 형태적 양상과 지도방법』, 이회문화사.

임성옥(2011)『한국어 교육용 속담 선정 및 등급화 연구 -스페인어권 학습자를 대상으로-』, 한국외국어대학교 교육대학원 석사학위논문.

주영진(2001)『우리말 속담의 관용어되기 연구』, 동아대학교 교육대학원 석사학위논문.